

Q14

言語活動の充実を図った道徳の時間の指導は、どのようにすればよいのですか。

－ポイント14－

- 自分の考えを基に表現する機会を充実する
- 児童生徒が自らの成長を実感できるような指導を工夫する

道徳の時間において、自分の考えを基に、書いたり話し合ったり討論したりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深めたり、自分の変容に気付いた入りして、自らの成長を実感できるよう工夫することが大切です。

例えば、次のような指導の工夫が考えられます。

小学校

- ◇ 資料や体験から感じたこと、考えたことをまとめ、発表し合ったり、討論や討議などにより意見の異なる人の考えに接し、協同的に討論したり、考えをまとめたりするなどの工夫をする。
- ◇ 人に感動を与える心の美しさや強さを浮き彫りとした教材等を活用する。
- ◇ 自分自身と集団や社会との関わりについての考えを深めるため、公正、社会正義などの道徳的諸価値に関わる様々な課題について討論を行うなどの工夫をする。

中学校

- ◇ 人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかといった人間としての生き方に関わって、生徒と生徒及び自分自身との対話が深まるよう、表現する活動の内容や場面を工夫する。
- ◇ 展開の段階で討論などを通して、資料中に描かれている登場人物等の生き方や他の生徒の意見を手がかりに自分の意見を練り上げたり、自分自身の考えを突き詰めて厳しく吟味したりするような指導の工夫をする。
- ◇ 終末の段階での書く活動を通して、その時間の学習を振り返るなどの工夫をする。

また、例えば、学習を通して、始めの段階と自分がどう変わったかが分かるような書く活動を工夫したり、自分が想定したもう一人の自分に問い掛けて考えを深める自己内対話を工夫したりして、児童生徒が自らの成長を実感できるような工夫を行うことも重要です。

道徳の時間において、言葉の能力を総動員させて学習に取り組み、道徳の時間のねらいを達成しましょう。